

多古町ぶらり散歩

史跡・遺跡

多古の史跡と遺跡～多古の地と深い関わりをもつ千葉氏

平安時代の末、多古は桓武平氏の流れをくむ千葉氏の荘園「千田荘」の中心地でした。千葉常胤は安房に逃れた源頼朝に助力し鎌倉幕府の成立に大きく貢献しました。常胤は幕府の筆頭御家人となり、千葉氏が下総最大の武士団となる礎を築きました。

以来勢力は全国に及び隆盛を極めていましたが、千葉氏宗家の終焉の舞台が多古の地になります。

享徳4年（1455）亥鼻城主千葉胤直は足利幕府の鎌倉府において重職の責にあり、古河公方の足利成氏と関東管領上杉房顕の争いに巻き込まれます。千葉氏は一族すべてが公方派でしたが、胤直は母の実家上杉方についたため、叔父で幕張城主馬加康胤と千葉家支族の臼井城主原胤房に急襲されます。

胤直は子息胤宣、弟の胤賢ら一族と、家老の圓城寺らを引連れ、千田荘の志摩城と多古城に逃れました。胤直は胤賢らと志摩城に立て籠もり、胤宣は側近の椎名与十郎胤家らと多古城に立て籠もりましたが、上杉派からの援軍が来る間もなく、多古城は先に陥落し、胤宣らは近くの阿弥陀堂で自刃しました。志摩城もその後陥落し、胤直らは栗山川を溯り土橋山東禅寺まで逃げましたが、すぐさま軍勢に包囲されここで自害し果てました。時に、胤直は42歳、胤宣は15歳の若武者でした。

6 多古城跡

現在、城域の大半は多古台住宅団地として造成され、スーパー等の商業地や多古こども園、多古幹部交番、多古台バスターミナル等が備わり大きな変貌を遂げています。

1991年から1998年にかけての発掘調査では、中世城郭遺構として、多数の掘立柱建物跡や墓壇、帯曲輪^{おびぐるわ}や虎口、空堀^{うねぼり}（敵堀）が発見されています。

敵堀は北条氏が拠点とする城郭に好んで用いたもので、その勢力がこの地に及んでいたことがわかります。

遺物は、14世紀から16世紀代の貿易陶磁や国産陶磁器を主体に石製品、金属製品や古銭等が出土しました。城跡が残っているのは多古こども園の東側にある一段



多古城跡（南南東から望む）

高い場所です。調査で見つかった空堀がそのまま続き台地の北側で一部を見ることができます。現状で幅が約20m、深さは5mほどと大規模な空堀です。



空堀跡



発掘調査で見つかった空堀（敵堀）

▶ 多古町多古字多古台 2222 ほか【MAP①/②】

7 志摩城跡 ^{はなわだい} 埜台遺跡

栗山川流域の低地に島のように浮かぶ独立台地にあります。2001年から2004年の発掘調査では、縄文時代や古墳時代の竪穴住居跡、弥生時代中期の再葬墓が多数発見されました。埜台遺跡の再葬墓は関東地方で最大規模の64基が検出され、出土遺物は重要な考古資料として千葉県指定文化財となっています。

城郭遺構は、堀、台地整形遺構、曲輪や掘立柱建物跡等が発見されていますが、現状では土塁・空堀等の遺構は見つかっていません。埜台遺跡が主郭、狭い谷を隔てた西側の二ノ台遺跡がⅡ郭と考えられます。遺物は、15世紀代を主体に12世紀後半から16世紀代の貿易陶磁や国産陶磁器、石塔類等の石製品、古銭等が出土しています。



志摩城跡（南から望む）



志摩城跡（二ノ台遺跡から）

▶ 多古町島字埜台 2861 ほか【MAP②】

< \ P.12 より続き >



鳥居越しに妙見神社を見る

15 並木城跡



並木城跡（南から望む）



土塁と空堀



枡形虎口

あめのみなかぬしのみこと

神は天御中主命、由緒は寛永10年（1633）佐倉少将大炊頭勧請とあります。天御中主命は妙見様の異名で、千葉氏一族の信仰が深く、北極星や北斗七星を神格化したものです。

▶ 多古町南中宇高田 1328-2 ほか【MAP①/④】

南並木集落の背後、栗山川と借当川の合流する水田地帯を臨む台地上に遺されています。南側は急峻、東側は谷が入り込み北東方に広がる台地からは切り離されたように見えます。台地の南側には、土塁と空堀で方形に囲まれた一郭があり主郭と考えられます。特に北側の土塁と空堀は二重に造られ防御に優れたものです。多古町内にある中世城郭の中では最も遺存状況の良好な城跡です。

建武年間（1334～1336）とみられる年末詳8月2日の「悟門書状」（金沢文庫文書）には「自千葉侍所、廿七日以大勢、土橋城へ打入り候て（中略）此城被打落て候、並木の城も、如本千葉方より、たてつき候よし承候」とあります。この地域は千田荘に属し、元弘・建武（1331～36）の頃、千葉胤貞の支配地でした。建武年間、千田荘では千葉胤胤と胤貞の対立から紛争が生じていましたが、この時胤貞方の拠る土橋城と共に、並木、大嶋（志摩城か）などの諸城が陥落しまし

た。この他にも康正元年（1455）、文明10年（1478）、明応2年（1493）、天正10年（1582）と幾度かの攻防があったとされています。

並木城跡近くの道路の分岐点に、天保12年（1841）芳薫亭梅堂ほか13名の有志によって建てられた芭蕉の句碑があります。この地方は芭蕉十哲の一人杉山杉風の流れをくむ俳諧が流行しました。句碑はその表れの一つと考えられます。碑文には、

「雲折々 人を休る 月見哉」はせ越

とあり、貞享2年（1685）に詠んだとされるもので、翌年8月下旬刊行の山本荷兮編『春の日』に採録されています。

▶ 多古町南並木字平台 895 ほか【MAP②/④】

16 中城跡

中村小学校の東方、半島状に突き出た台地上にあります。『千葉県埋蔵文化財分布地図』には、中世の砦跡として単郭方形、土塁、空堀があると記載されています。台地頂部には平場が設けられ主郭と考えられます。西側には土塁があり、東側先端部を除き、頂部周囲に腰曲輪が遺っています。

昭和3年の「区長報告書」諏訪神社の項には、往古千葉胤貞公が中村南中高台の一角へ城を構え中城と称す、と記されています。「中城」という地名は谷を隔てた諏訪神社側の台地にもあり、社周辺には城郭遺構も確認され中世城館跡「物見台跡」として周知されています。

▶ 多古町南中宇中城 397 ほか【MAP④】



松尾芭蕉句碑



多古町ぶらり散歩

神社・仏閣

61 竹林山 妙光寺



題目板碑

平山忠兵衛家の菩提寺でもあります。

日蓮宗の寺で、寺伝には貞治3年(1364)日朝上人の開基とあります。同じ開基の多古の妙光寺、島の妙光寺(後に正覚寺)と並び「三妙光寺」と称されています。

題目板碑(石造卒塔婆)が多い寺としても有名で、応安5年(1372)銘をはじめ長禄年間(1457～1460)までの下総型題目板碑14基は町指定有形文化財となっています。なかでも応永33年(1426)銘の板碑には胤貞から胤満までの千葉氏武将6人の記載があり歴史的に重要なものといえます。

また、南中五軒党といわれた郷土の平山藤右衛門の弟で、鎬木(旭市)に移住した

<妙見社>

妙光寺本堂左手の小高い丘の上に妙見社があります。寺伝によると寛永9年(1632)に住職日大が勧請したものとあります。また、千葉氏に属していた大堀城の那須氏が天正の落城と同時に隠退して土着帰農し千葉氏守護神の妙見像と共にこの地に逃れ、後に一字を建て祀ったものだともいわれています。

現在の妙見像は、昭和62年12月17日の千葉県東方沖地震により旧像が甚だしく破損したため、翌年にその一部を遺しほぼ新たに制作したものです。

▶ 多古町南中字唐竹163【MAP④】



丘上の妙見社



妙見像

62 巨栄山 徳成寺

「徳成寺由緒」には、応安元年(1368)の創建で中山法華経寺3世日祐上人の開基とあります。元は真言宗で、飯土井城主千葉胤貞の祈願寺でした。胤貞は日祐の教化により日蓮宗に改宗し、二子を日祐の弟子とし、胤貞の名から、それぞれ日胤、日貞と改めました。また、時の住職了海法印も改宗し名を日了と改め寺を日祐に献じました。日祐は日貞に寺を継がせ、日蓮聖人の真筆「一遍首題」一幅を授けました。現在、寺の霊宝殿に所蔵されています。

日祐は胤貞の養子となり、胤貞と九州に赴任した際、小城に日蓮宗を布教し光勝寺を開山しました。その境内には胤貞の墓が遺っています。

また、口伝によると胤貞は、居城を飯土井台に構え、その鎮守神高田の妙見社の別当常心坊を城内に建てて祈願所としたが、これが後の徳成寺であるという。現在、この妙見社の北側の山林が「寺山」と呼ばれ徳成寺跡であるといわれています。

▶ 多古町南中字芝1711【MAP④】



63 法性山 浄妙寺

日蓮宗の寺で、『中村寺院明細帳』には天平宝字年間(757～764)鑑真の創建で東耀寺と称し、聖武天皇の御勅願寺というとあります。律宗の後真言宗となり、貞和2年(1346)には日祐により日蓮宗に改宗し、寺号を浄妙寺に改めたと記されています。

寺には天正5年(1577)の多古城主牛尾胤仲の制札、天正19年(1591)の徳川家康の御朱印状が所蔵されています。山門には寛保2年(1743)京都宝鏡寺(別称人形寺)22世本覚院宮書の「法性山」の扁額が懸かっています。本堂は東西から力士像が棟木を支える珍しい建築です。

▶ 多古町北中字北場2214【MAP④】

